

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復実技3							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・夜間部	2年	1・2期	稲川 郁子		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	柔道整復実技			実技	1	20	
科目概要							
上肢骨折のうち、鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折について、柔道整復師に求められる基礎的な知識を確認したうえで、治療技術について学ぶ。							
目標							
<b>一般目標(GIO)</b> <small>本講義を学習することで達成されるべき目標</small>	上肢骨折のうち、鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折の治療時に求められる基礎的な知識の確認および基礎的な治療技術を習得している。						
	<b>到達目標(SBO)</b> <small>一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)</small>	①鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折の治療に伴う基礎的な知識を習得し、臨床現場で活用できる。 ②鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折における基礎的な整復法、固定法を実践できる。					
履修に必要な予備知識や技能							
鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折の理解に必要な基礎的な解剖学ならびに柔道整復学の知識。基本包帯法。							
教科書・参考書							
『柔道整復学・実技編 第2版』全国柔道整復学校協会監修、南江堂 『柔道整復学・理論編 第6版』全国柔道整復学校協会監修、南江堂							
受講上の注意							
単元毎に適宜座学による知識の確認を行います。実習時は白衣を着用してください。タオルなどを持参していただくことがあります。準備、片付けは協力して素早く行いましょう。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)				90		10	100
実技試験実施要項							
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	イントロダクション、整復・固定の実際			—			
第2回	鎖骨骨折①知識の確認			理論編 p220-225			
第3回	鎖骨骨折②整復法			実技編 p62-74	柔道帯		
第4回	鎖骨骨折③固定法			実技編 p62-74	綿包帯、スポーツタオル3本		
第5回	クラメル副子の作成			—			
第6回	上腕骨外科頸骨折①知識の確認			理論編 p233-239			
第7回	上腕骨外科頸骨折②整復法(外転型)			実技編 p75-96	柔道帯		
第8回	上腕骨外科頸骨折③固定法(外転型)			実技編 p75-96	綿包帯、スポーツタオル1本		
第9回	上腕骨外科頸骨折④整復法(内転型)			実技編 p75-96	柔道帯		
第10回	上腕骨外科頸骨折⑤固定法(内転型)			実技編 p75-96	綿包帯、スポーツタオル1本		
第11回	上腕骨骨幹部骨折①知識の確認			理論編 p256-262			
第12回	上腕骨骨幹部骨折②整復法			実技編 p97-105			
第13回	上腕骨骨幹部骨折③固定法			実技編 p97-105	汚れてもよい衣類		
第14回	上腕骨骨幹部骨折④固定法			実技編 p97-105	汚れてもよい衣類		
第15回	上腕骨顆上骨折①知識の確認			理論編 p266-271			
第16回	上腕骨顆上骨折②整復法			実技編 p106-121			
第17回	上腕骨顆上骨折③固定法			実技編 p106-121	綿包帯、スポーツタオル1本		
第18回	上腕骨顆上骨折④固定法			実技編 p106-121	綿包帯、スポーツタオル1本		
第19回	定期試験			—			
第20回	総括			—			
実務経験と本講義との関連について							
柔道整復師として接骨院および整形外科で勤務した実務者の立場から展開する。							
メールアドレス							
inagawa-t@nihonisen.ac.jp							